

とかちの木で家をつくる会

<http://tokachinoki.com/>

会長 瀬上晃彦
(オムニス林産協同組合理事長)

1 設立経緯

「とかちの木で家をつくる会」は、住宅をつくる人と家を建てようとする人が、お互いに顔の見える関係を作り、カラマツをはじめとした地域の木材を使った家づくりを通して、十勝の森林を育み、環境の保全につなげようと十勝管内の森林組合、製材工場、設計事務所、工務店などで構成される団体で平成16年5月に誕生しました。

平成11年に十勝総合振興局（旧十勝支庁）林務課の声掛けで、大径化してきたカラマツの有効利用を考えるために設けられた「カラマツ王国活性化事業」で3年、さらに「カラマツの家作り推進会議」で3年カラマツの需要開拓を考えてきたメンバーが、引き続き継続して活動している会です。現在、素材生産事業者2社、製材事業者6社、設計事務所3社、工務店5社、資材販売等3社、アドバイザー・オブザーバー4団体で活動しています。

2 活動内容

(1) 地域材の普及・啓蒙活動

会員の設計・施工したカラマツ住宅の建築状況や現場見学会等の情報をホームページ等を利用して広くアナウンスしています。

(2) 普及推進会議

定期的に会員相互の意見交換及び勉強会を行っています。

(3) 道産材を使用した建築物及び加工施設等の研修視察

昨年はカラマツを使用した大型牛舎の視察をしました。

(4) カラマツ苗木の植樹祭

会員及びその家族、各会員のお客様やその家族など毎回多くの参加者で行っています。

3 顔の見える家作り報告会

会の事業計画のひとつである普及推進会議として、上記報告会を8月5日に帯広市内の十勝プラザにおいて午後6時から行いました（会員数18社中14社、総合振興局2名、お施主様1名の計17名の参加）。

この事業は、林業関係者であるお施主様の、『自分の家を山から設計・施工に至るまで地域内ですべて完結したい』・・・というご希望から始まり、帯広周辺の事業者が携わって、実現しました。

山元	豊頃町	坂口山林
造材・運搬	帯広市	(有)ナカザワ
製材	浦幌町	木下林業株式会社
乾燥	幕別町	オムニス林産協同組合
製材販売	幕別町	(有)瀬上製材所
設計	帯広市	(有)陽建築工房
プレカット	旭川市	旭川プレカットセンター
施工	音更町	(有)水野建設

設計開始から完成までの流れ、使用した構造用木材の明細は表1及び表2の通りです。

表1 設計開始から完成までの流れ

平成21年 後半	お施主さんと設計の今田氏との打ち合わせ
平成22年	
2月	各業者が集まり打ち合わせ
2月	木材調書出来上がり
3月	山に伐採を発注
4月	伐採作業
5月	製材
5月	乾燥
5月～10月	養生
10月	プレカット加工
11月	建て方始め
平成23年	
2月	完成

表2 使用した構造用木材明細

山林指定分 構造材	11m ³	平均単価 77,000 円/m ³
通常在庫分 構造材	4m ³	平均単価 67,000 円/m ³
構造用集成材	3 m ³	
合計	18 m ³	

今回は顔が見えることにこだわりましたので、従来の建築と、若干の違いが生じました。

製材工場における原木の買入価格は通常より10%ほど高く設定しました。また、製材の販売価格は通常よりより15%ほど高く設定しました。結果として、製材の総額は、顔が見えることにこだわらない場合と比較して11万円高くなりました。

山元から施工の工務店までのなかで、特別の対応が必要だったのは山元、伐採・玉切作業、製材販売で、他の業者は通常との違いは見られませんでした。

山元及び伐採作業で通常作業との違いは、必要とする原木の長さ、径、本数が予め決まっているために、立木の段階で倒す木を選択しなければならなかったことです(表3)。

その結果、伐採作業の効率が落ちました。また、玉切り作業においても、必要とする径と長さを考えながら切らなければならないため、作業効率が落ちました。設定した10%増しの単価では、作業効率から言って少し厳しいとの結果となりました。

しかしながら、今までは、切った木はどこでどのように使われているのか分からなかったのが、今回は利

表3 使用原木の内訳

材長	平均直径	本数	材積
4.0m	32cm	10 本	4m ³
3.7m	28cm	80 本	21m ³
2.8m	22cm	130 本	17m ³
合計		220 本	42m ³

表4 製材生産状況

製材出来高	23m ³	歩留 54%
乾燥材出来高	19m ³	歩増 124%
うち物件使用数量	11m ³	使用率 6 割
残存数量(在庫増)	8m ³	

用先が分かり更に住まい手の顔までわかることは、今までとは違う満足感があるとのことでした。

なお、建築用に取りれない丸太については通常のカラマツ製材用、パルプ用として使いました。

また、製材販売側では、割高な製材の在庫を持たざるを得ないことと、原価の変動が大きいことが課題となりました。

つまり、特定の原木から製材を採る際に副産物として側板が生産されますが、それらを全部同じ物件で使い切ることはできませんでしたので、在庫として残ってしまうことです。また、製材、乾燥後の製材はすべて買い取る方法としたため、死節、抜節、腐れ、ヤニ、割れ等の欠点のある材も引き取ることとなり、不良材の割合によって原価が大きく変わってしまいます。設定した15%増しの単価では少し厳しいとの結果となりました。

4 まとめ

木材代金が15% (11万円程) 高くなった等、今後解決しなくてはならない課題はありますが、結論としては、お施主様は川上から川下までの顔の見える家作りができて、安心、納得、満足の家作りができました。業者側も、課題は色々あったが他とは差別化できる付加価値のある家作りができました。

当会ではこのような家作りを通して、地域の山に再び植林され、地域の経済に貢献し、更に環境にも優しいこの取り組みを少しでも広く普及させていきたいと考えております。



図1 報告会の様子